

[成果情報名] アカマルカイガラムシの発消長と防除効果

[要約] アカマルカイガラムシの第一世代幼虫は6月中旬に発生のピークがあり、第二世代の幼虫は8月上旬より発生し、9月中旬から急激に増加し、10月上旬まで極めて多く発生する。発生のバラツキの大きな第2世代幼虫期の防除としてはアブロード水和剤が効果的である。

[キーワード] アカマルカイガラムシ、カンキツ、発消長、防除効果

[担当機関名] 果樹試験場・環境部 [連絡先] 0737-52-8717

[部会名] 果樹 [分類] 指導

[背景・ねらい]

近年、県中部の中晩柑においてアカマルカイガラムシが多発し問題となっている。本県での発生実態は全く不明であることから、発消長を明らかにし、防除の難しい第2世代の防除効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 第1世代幼虫の初発は5月下旬で、発生量は少ないが6月2・3半旬に発生のピークがある(第1図)。また、第1世代成虫は7月下旬よりみられ、8月上旬から成虫になる個体が増加してくる(第1図)。
2. 第2世代の幼虫は8月上旬より発生し、9月中旬から急激に増加し、調査の終了する10月下旬まで極めて多く発生する(第2図)。第2世代幼虫発生期の後半に第3世代の幼虫が混在する場合がある。成虫は10月下旬まで発生数が順次増加する(第2図)。
3. アブロード水和剤は散布後に成虫に発育する個体は全く認められず、幼虫も少なく高い防除効果が認められる(第1表)。
4. スプラサイド乳剤は無処理区に比べれば散布後の成虫及び幼虫数は少ないが、防除効果はやや低く(第1表)、発生期間の長い第2世代幼虫を対象とすると、スプラサイド乳剤1回散布は十分な防除効果が得られない。

[成果の活用面・留意点]

1. 第2世代の幼虫期は発生のバラツキが大きいので、適期防除に努める。
2. 薬剤防除は発生の少ない第1世代幼虫期が重要であり、効果不十分な場合は第2世代の追加防除を行う。

[具体的データ]

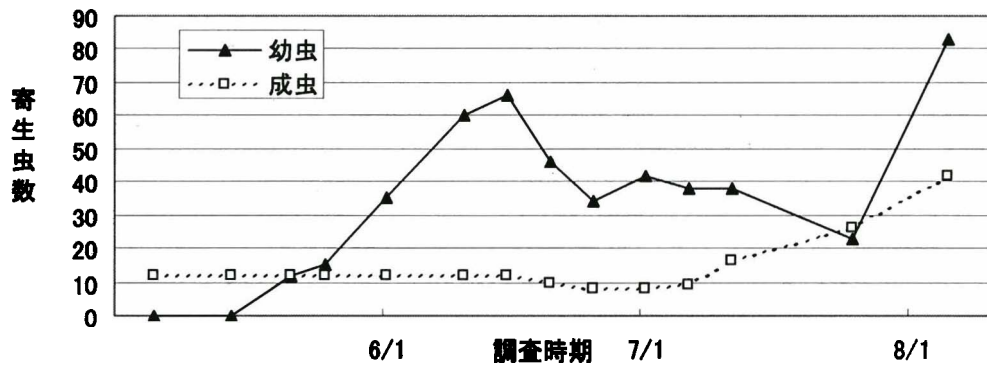


図1 由良町の現地ほ場におけるアカマルカイガラムシ第1世代の発生消長(2004)

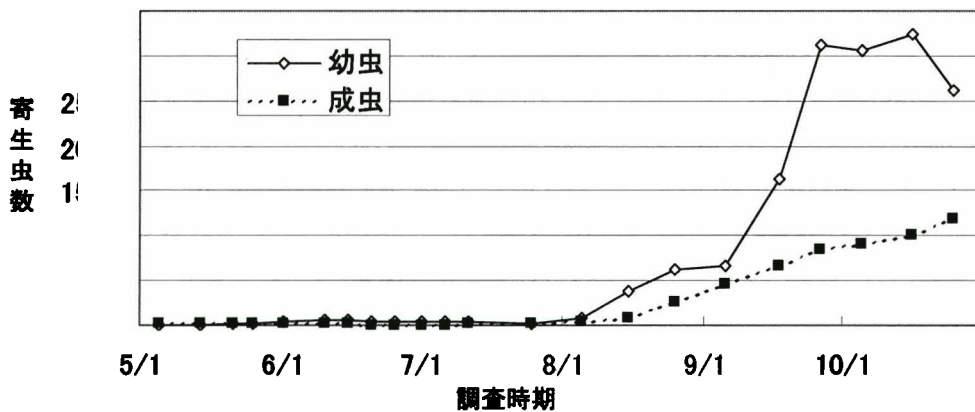


図2 由良町の現地ほ場におけるアカマルカイガラムシの発生消長(2004)

表1 アカマルカイガラムシに対する各種薬剤の効果(2005)

供試薬剤名	希釈 倍数	区	散布前寄生虫数(9/3)					散布3ヶ月後寄生虫数(12/3)					備考		
			成 虫		幼 虫			成 虫		幼 虫					
			♀	♂	3齢	2齢	1齢	合計	♀	♂	3齢	2齢		1齢	合計
アプロード水和剤	1000	1	6			39	114	153			5	11		16	
		2	7			30	80	110			1	6		7	
		3	10			36	108	144				6		6	
			23	0	0	105	302	407	0	0	6	23	0	29	
スプラサイト乳剤	1500	1	6			29	110	139	4	5	14	15		29	
		2	11			18	98	116	2	4	13	12		25	
		3	19			74	113	187	7	1	7	9		16	
						36	321	357	13	10	34	36	0	70	
無処理					40	77	117	31	72	78	112		190		
					64	118	182	2	61	39	76	5	120	枝枯れ	
					61	141	202		20	27	40		67	枝枯れ	
		合計	42	0	0	165	336	501	31	153	144	230	5	379	

[その他]

研究課題名：アカマルカイガラムシの発生消長と防除効果

予算区分：県 単

研究期間：平成16～18年

研究担当者：中 一晃

発表論文等：